

〈指導教員推薦文〉

社会学部 教授 貴 戸 理 恵

河西 優 「精神障害の親をもつ『ヤングケアラー』の語りにもみる社会的排除：
『ケアする存在』と『ケアされる存在』のはざままで」

推薦理由

本論文は、精神障害を持つ親のケアを子どもの立場から担ってきた「ヤングケアラー」とされる人々に焦点を当て、4名の当事者へのデプス・インタビューを通して、彼ら・彼女らがいかなる困難を抱えているか、その困難がいかに社会において不可視になっているかを描いている。推薦した理由は以下である。

第一に、ヤングケアラーという存在を、「ケアする者でありながらケアされる者でもある」という二重性によって描き出した点である。筆者によれば、ヤングケアラーは家族介護規範によって親の介護へと追い込まれると同時に、子どもとしての保護される権利から疎外されている点で二重の排除を受けており、「ケアラーとしても子どもとしてもみずからのニーズを表明できない＝当事者になれない」状態にある。

機能不全家族で育った子どもの問題についてはこれまで「アダルトチルドレン」「児童虐待」として論じられてきたが、「ヤングケアラー」という概念を導入することで、家族介護の限界や社会的排除といった社会学的な観点で捉えることが可能となっている。

第二に、インタビュー・データの資料的価値である。本研究では、「精神障害の親を持つ子ども」という極めてアクセスの困難な対象に家族会を通じて連絡を取り、詳細なインタビューを行い、厚みのあるケースレポートを仕上げている。リスクの高い対象であり、調査の実現までは、調査倫理に関する書類や対象者への情報提供シートの作成、家族会の責任者への説明、大学事務室や保健館との連携など高いハードルがあったが、筆者はすべてをクリアして調査を実現させた。ヤングケアラーについての質的調査は先行研究が薄く、詳細な独自のデータはそれ自体が一次資料としての価値を持つと言える。

卒業論文として優れた水準に達しており強く推薦した。